

## 令和六年 年頭のご挨拶

令和 6 年能登半島地震に被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。大災害は必ず起こります。今後とも法人挙げて強靱なハード・ソフト作りを心掛けていきます。

2023 年はロシアのウクライナ侵略に続きパレスチナでの戦争も始まり、世界情勢に暗い影を落としている激動の一年でした。

コロナパンデミックは終息に向かいつつありますが、当法人立川総合病院においては 4 月より消化器内科医師 1 名となり 10 月からは不在、この緊急事態には長岡市医師会様はじめ、長岡赤十字病院様、長岡中央総合病院様ほか多くの方々にご協力頂いており、この場を借りて感謝申し上げます。

有難いことに 12 月から昭和大学横浜市北部病院消化器センターから週 1 回の応援が叶いました。当地行政も挙げて歓迎の意を表しています。今後の見通しは不透明ですが、新潟県における消化器内科診療充実への一助となれることを期待しております。

しかし昨年末には「医師の働き方改革に関する特例申請が長岡赤十字病院、長岡中央総合病院、魚沼基幹病院に」、「救急体制への影響不安」との衝撃的な新聞報道がありました。

2024 年も新潟県、中越地域の医療・介護分野では激動が予想されます。3 月に県央基幹病院開院、4 月から働き方改革が本格始動、診療・介護・障害者関連の報酬トリプル改定が続きます。昨年末に行われた中越地域医療構想調整会議では多くの病床転換や減少が審議されました。今後の影響を注視していく必要があります。

一方では依然として厳しい新潟県の医師不足に加え、医療・介護職従事者全般の減少加速、コロナ補助金削減による急性期病院の収支悪化などが予測されます。

明るい材料はあります。

昨年末、長岡市東西道路四車線化期成同盟会が設立され高速大積スマートインターから国道 8 号をへて東西道路への連絡道路工事が始まります。今後全線四車線化により新潟県中央部での東西の大動脈が完成します。立川総合病院、悠遊健康村病院群、柏崎厚生病院群がほぼ直線で繋がります。

悠遊健康村病院においては透析施設が順調に稼働し昨年は目標とした 30 名定員が叶いました。今年さらに定員増を予定しております。当初は通院透析できなくなった患者さんのための施設を想定しておりましたが、その効果は多方面に及んでおります。レスパイト入院、他疾患併発でのリハビリ入院、ターミナル想定での入院がリハビリにて退院できた患者さんもあります。現在当地域で通院透析されている多くの患者さんや導入予定の方々の将来不安の払しょくにもなっているようです。

様々な試練に直面する中、私たちの使命は救急医療をはじめとした地域医療の質と量の堅持、医療需要への迅速な対応、医療人育成など未来への投資を着実に進め、患者さんにも医療職員にも選ばれる当地域にとって魅力ある法人となることと認識しております。

本年が皆様にとって実り多い良い年になることを心より願い、年頭のご挨拶とさせていただきます。

医療法人立川メディカルセンター 理事長 吉井 新平